

# 今、子どもたちの健康状態が危ない

—白鷹町「子どもの健康づくり健診」の結果から考える—



## 進む生活習慣病の若年化 着目すべき子どもの健康

町で行っている健診の結果、40歳以上は7割以上に、40歳未満は5割以上に異常が見られ、生活習慣病の若年化が進んでいるという現状がうかがえます。

そこで町では、子どもの生活状況とからだの実態の現状を把握し、家庭や地域ぐるみでより早い段階から生活習慣病予防の取り組みを進めるべく、今年度新たに小学5年生と中学2年生の希望者を対象にした「子どもの健康づくり健診」を実施しました。

今回受診したのは、対象の小学生96人中48人(50%)と中学生110人中50人(45・5%)の子どもたち。健診の結果を知って、皆さんで「子どもの健康」について考えましょう。

## 健診の結果を知ろう

①総合判定(図1)：要指導以上の者は、小学5年生17人(35・5%)、中学2年生20人(40・0%)で、全体で37人(37・8%)という結果でした。このことから、4割近くの子どもたちの健康に異常があることがわかります。

②検査項目ごとの異常が見られる者の割合(表1)：小学生は脂質、体格(肥満傾向)、血糖、肝機能の順、中学生は貧血、尿酸、体格(肥満傾向)、脂質の順に高い結果でした。

③受診者1人当たりの異常が見られる項目数と割合(図2)：2つ以上の項目で異常が見られる者は、小学生20・7%、中学生14・0%でした。異常が見られる項目が多くなるほど生活習慣病を発症しやすくなります。

④肥満傾向がある者と肥満傾向がない者の比較(図3)：肥満傾向がある者の方が1人当たりの異常が見られる項目数が多いことがわかり、また、それは特に中学生ではつきりしています。

## 健診結果と問診票の集計結果からわかったこと

●ころやからだがあまり元気でないと感じている者は、小学生では見られませんが中学生では少し見られます。

●体を動かすことを好む者の割合は小学生(81・3%)より中学生(62・0%)で低い状況です。

●運動の頻度が少ない者は、多い者(週4回以上の運動)に比べて異常が見られる割合が高くなります。

●メディア端末の使用時間が長い者(平日、休日とも3時間以上使用)は、短い者に比べて異常が見られる割合が高くなります。

●からだに何らかの不調があると感じている者は全体の約7割で、小学生(58・3%)より中学生(80・0%)の方が多く、不調がない者に比べて異常が見られる割合が高くなります。

●嫌いな食べ物がある小学生(56・3%)のうち、野菜類が嫌いな者は55・6%で、嫌いな物が複数ある割合は66・7%です。